

# 平成 27 年度 矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民大会

開催日時：平成 28 年 2 月 13 日（土）午後 1 時 00 分から午後 3 時 30 分まで

開催場所：別海町中央公民館

参加人数：36 名

## <タイムスケジュール>

- 1 開 会
- 2 町長挨拶
- 3 まちづくり構想について（事業説明）
- 4 講演「つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり」
- 5 ワークショップ及び意見交換
- 6 閉 会

## 1 開 会 （司会 総合政策課長）

## 2 町長挨拶

## 3 まちづくり構想について（事業説明）

### 事務局

2月12日より意見公募を開始した「矢臼別演習場周辺まちづくり構想（基本構想原案）を中心に、これまで町がどのように取り組みを進めてきたかについて、説明をしたい。

今回の矢臼別演習場周辺まちづくり構想の下地にあるものとして、ひとつが別海町総合計画。もうひとつは別海町市街地活性化計画となっている。

まずは総合計画の方から確認していきたい。別海町では、平成21年度から平成30年度までの期間、第6次別海町総合計画として「笑顔あふれる豊かさ実感のまち ベつかい」というタイトルで、重要な柱として、「活力ある産業のまち」「自然と共生するまち」「健やかに暮らせる福祉のまち」「人を育てる学びのまち」「快適で安全なまち」「参画と協働でつくるまち」、以上6つの項目を設け、取り組んできた。中でも、ここ別海地区では、建築から40年以上が経過している中央公民館は老朽化しているだけでなく、学習会や講座などの取り組みなど、町民の皆さんの要望に応えることが難しい状況にある。他にも、既に役目を終え廃止した施設がそのまま残り、住宅地は郊外に拡大し、結果、これまで住宅地や商業地として整備してきた場所に、空き地や空き屋が多くなるといった課題がある。そこで町では、別海地区の課題の解決は、個々の問題解決ではなく、町全体を見たときに別海地区には何が必要なのかを改めて考え、平成26年度に「別海町市街地活性化計画(別海地区)」を策定した。市街地活性化計画では3つの方針にまとめ、まず一つ目は「豊かな地域生活の持続」とした。取り組みとしては、別海地区の中に住宅地として住みたくなる場所・エリアを定め、日常生活における「便利・外見・安心・静閑」などの要素に対し、公共施設や交通、防災、住環境などに関わる周辺整備を進めていくこととした。二つ目は「地域活動の主役をつくる」。総合計画にも「参画と協働のまちづくり」という柱があるが、自然発生的に住民の方がまちづくりに取り組む、というのは非常に難しいことである。別海町では 住民が自主的に行う活動や学習など、ひとづくり・まちづくりへの支援として、主にソフト面での充実を図っていく事とした。最後は「魅力ある商業地域と環境の創出」。「集客交流産業」は、外貨獲得・一発

逆転を目指す観光にクローズアップしてしまいがちだが、一般的に、地方の中心市街地に文化観光施設をひとつ設置しただけでは、周辺の個店に営業効果を生み出さないとの調査結果もある。ここでいう魅力という面においては、第一に日々を暮らす町民のためのものであるべきだと考えている。来街者を増やし、別海地区に本町の拠点地区として相応しいにぎわいを取り戻すために官民両面から考え、そして実行していきたい。

以上、この二つの計画の中で整理した課題で、特に大きなものとして、町内で最も利用されている公共施設は中央公民館であり、その建替えである生涯学習センターの建設。そして、もうひとつの柱である、住民のおよそ4割が集中する別海地区の防災対応力強化について、安心安全なまちづくりとしても早急に対応する必要があるものとして考えている。特に、財源については大変大きな負担となることから、国による補助制度や民間の社会資本投資、民間事業者による公共施設建設など様々なものを検討してきた。それらの財源を検討した結果、今回の矢臼別演習場周辺まちづくり構想となる、防衛省所管のまちづくり事業について補助金を受けて進めることとした。このまちづくり事業だが、「まちづくり事業は、特定防衛施設関連市町村が、住民の需要や防衛施設の存在、自然環境、歴史、文化等の特性を踏まえ、障害の緩和に資する施設の整備を通じたまちづくりを行う場合に補助対象となる」となっている。ここで策定された計画は、採択条件にある「防衛施設を含む地域の特徴を踏まえ、自衛隊員等と防衛施設の周辺地域の住民の文化交流又は地域における防災等のための活動の促進を企図したまちづくり」を含めることで施設等整備が可能になるものである。そのため、今回の構想名の冒頭にあるとおり、国内最大規模の演習場である「矢臼別演習場」の設置・運用によって、周辺地域の住民の生活や事業活動が阻害されている現在の状況に対して、生活の安定を資する事業という意味合いも含め、「矢臼別演習場周辺」という冠の付いたタイトルになっている。

次に、検討した各補助事業の有利・不利な面について紹介したい。まず有利な面として、計画策定時点から補助制度を活用でき、複数の施設について策定が可能であり、補助率も計画策定で9割・施設建設で7割と一般的なものより大変有利な内容になっている。不利な面としては、計画を策定した上で施設建設に取りかかるので、単体施設を建てる場合より計画期間が長く、今回の矢臼別演習場まちづくり構想では本年度の平成27年度を含め三か年が策定期間となっている。この三か年の流れだが、平成27年度は「基本構想」ということで、理念や目標などの考え方を決める段階。平成28年度は「基本計画」ということで、形以外の基本的な事柄を決める段階。これは、施設の整備内容や、管理運営計画、利用促進計画などということになっている。3年目の平成29年度は「実施計画」ということで、基本的な事柄を動かすのに必要な内容を決める段階。これは運営・収支計画や概算設計ということになっている。実際に施設の建設が始まっていくのが、平成30年度以降という形になっており、まず1年目の今年については、「基本構想」ということで、例えば、まちにどんな課題があるのか、どのような状況にあるのかを、統計データや住民懇話会などで意見を聴取しており、また、関連計画の把握として、総合計画、市街地活性化計画、防災計画、民間団体の意向なども聴取しながら、基礎条件の精査を行っている。そのほかにも、住民からの意見聴取機会ということで、本日の住民大会のほかに「まちづくり構想アンケート調査」として、11月20日から12月28日の期間、18歳以上の無作為抽出による2,500名の町民から、868名 34.7%の方から回答をいただいた。ここでは公民館や防災だけに限らず、例えば来街機会や生活状況などについても聞いている。また「まちづくり構想住民懇話会」というのも実施している。構成としては、町内会などの地域団体や農協・商工関係団体などの経済関係団体の代表者、地域活動を実践されている方、その他にも先程のアンケート調査の中で懇話会委員になっても良いと申し出のあった方を含め、15名で構成している。検討状況としては、別海町の課題の共有や整理。また、それまで出た意見やアンケート結果を踏まえて、具体的な機能のイメージということで検討を行っている。この具体的なイメージの検討については、先ほど受付でシール投票をしていただいたが、今日この後のグループワーク

の中でも、同じように実施していきたい。

最後に原案がどのような形でまとまっているかを確認したい。配布資料1枚目の右側からご覧いただきたい。公開している原案の冊子としては、7章の部分になる。構想対象エリアの課題について、平成26年度に策定した「別海町市街地活性化計画（別海地区）」において整理した課題を含め、住民懇話会等での検討を行い、（1）拡大する住宅域の位置づけ、（2）市街地のコンパクト化、（3）防衛関連施設について、（4）災害時の避難場所の確保、（5）消費購買力の域外流出、中小小売業等の衰退と商業の活性化、（6）交流拠点、防災拠点となる施設の整備、（7）空き店舗、未利用地の有効活用、（8）来街者の増加、回遊性や滞在時間の向上、として8点にまとめている。次に2枚目をご覧いただきたい。まちづくり構想（基本構想）として、記載のとおりまとめている。はじめに、まちづくり構想の基本理念や方針を検討する上で、第6次総合計画や地域防災計画、市街地活性化計画、他にも教育委員会で意見を取りまとめ答申をいただいた、生涯学習センター建設基本構想などの関連計画を踏まえ、住民懇話会やアンケート調査結果から、基本構想策定の視点を整理している。それらを整理したうえで、目指すべきまちの将来像を表す言葉を「つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり」として定めている。

また、整理した視点を踏まえ、7つの基本方針を定めた。

基本方針1として、町民がつながり地域を支える関係づくりを目指します。

基本方針2として、災害対応力強化に資する食料供給や災害対策の充実を図ります。

基本方針3として、子どもから高齢者まで、多世代で交流できる場づくりを目指します。

基本方針4として、地域のことを地域で消費でき、町民の買い物を支える場を創造します。

基本方針5として、別海で暮らし続けるための雇用環境の改善を図ります。

基本方針6として、町民が集い、憩うための拠点機能（公民館機能）の充実を図ります。

基本方針7として、市街地のコンパクト化を目指した、効率化と複合化の公共機能整備を進めます。

その右側には、基本方針を具現化する手立てとして、具現化されたらどのようなまちの姿になるか、ということに記載している。

それでは、原案の説明については以上になります。

#### 4 講演「つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり」

##### 株式会社 KITABA 神長氏

本日、「つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり」ということで、副題で「大人が輝けば、子どもはもっと輝く」をつけさせていただいた。「つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり」について、まず「つながり」とは何かを調べてみると、「つながること、関係」としか出てこなかったもので、画像を検索してみた。そうすると、男性と女性が赤い糸で結ばれている対のようなイメージや、大人数または小人数でぎゅっとつながるといような、色々な形としてご理解いただいたほうがよろしいかと思う。次に「ささえあい」だが、「互いに互いをささえあうこと。互いに相手の力になって状態や関係を維持していくこと」。これも、一対一で支えあうというだけではなくて、対で支え合うこともあれば、グループで支え合うということもある。次に「はぐくむ」だが、「養い育てる、大切に守り大きくする」。こうなるとイメージも多様化し、お母さんが子どもを育てるといのが一番分かりやすいと思う。他には自然をはぐくむ、関係をはぐくむなど、色々な「はぐくむ」がある。おそらく、このまちづくり構想のテーマの中には、色々な「はぐくむ」が込められているのだろうと、私なりに解釈している。次に「創造」。これは少し抽象的にもなってしまうのだが、「新しいものをはじめて作りだしていくこと」となっている。「交流」では、「異なる地域、組織、系統に属する人

やものが互いに行き来すること」ということで、「つながり」や「ささえあい」と似ており、対の交流もあれば、国やセクターを越えてなど、色々な交流がある。「まちづくり」についてはよく聞くとと思うが、「さらに良い生活が送れるように、ハード・ソフトの両面から改善を図ろうとするプロセス」ということで、ハードだけではなくソフトも大事であり、そしてその改善を図るプロセスが大事だというふうに言われている。私は普段仕事で、都市計画やまちづくりのお手伝いをしているので、もう少し専門的に調べてみると、外国に「Machi-zukuri as a new paradigm in Japanese urban planning」というタイトルの本がある。これは「まちづくり」が、都市計画の世界で「Machi-zukuri」として通じていることを表している。日本語訳は「日本の都市計画における新しい方法論としてのまちづくり」なのだが、この本に2つのことが書いてある。ひとつは、「中央集権、トップダウン、動き出したらとまらない、行政にお願いする、陳情、行政主導の旧来型のまちづくり」が、日本では主流だったということ。もうひとつは、特に阪神・淡路大震災以降、「協働のまちづくり」「住民主体による自主自立の地域再生」「地域主体のまちづくり」が、いま日本で起きているまちづくりということで、2つの事例が大きく紹介されている。近年、東日本大震災もあって、益々そういったことが日本では強く住民から望まれ、また動き出しており、このことが海外で大きく取り上げられている。

この、別海町の「つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり～大人が輝けば、子どもはもっと輝く～」ということだが、その背景には一体どんなことがあるのか。ひとつは社会的な背景として「少子高齢化の進展」がある。ただ、別海町さんは道内179の自治体から見ると、少子化率・高齢化率が低いので、下から数えたほうが早い。つまり、あまり心配は無いということなのだが、先ほど事務局からの説明にもあったように、確実に少子高齢化は別海町でも進展していく。それから、「維持管理コストの限界」。先ほどまちづくりの在り方を2つご紹介したが、1つ目の「旧来型のまちづくり」でつくっていったときに、それを維持していくのがなかなか難しい状況にある。また、地域の皆さんのニーズが非常に多様化していく。その他、高速道路やETCなどがそうだが「自動化」してきており、それによって雇用環境が大きく変化してきている。そして「コミュニティの崩壊」が、社会的背景として挙げられる。別海町さんとはいうと、先ほどの説明にもあったように、拡大する住宅域の位置づけや高齢化時代の市街地のコンパクト化というようなことが、大きな課題となっているということである。例えば、以前こちらで学習会をさせていただいたときにご紹介したのだが、モノの移り変わりを見ていただくと分かりやすいと思う。そのひとつが携帯電話なのだが、最初は肩から下げるショルダーバッグ式のもので、当時、電話は「電話機能」だけだった。それが、電話にメールの機能がつくようになり、カメラも相当性能の良いものがつき、インターネットができるのも当たり前になった。モノの複合化・多様化である。これは消費者のニーズが多様化しているということ、技術が進歩しているというもあるが、求めるものが多くなってきた結果、このように複雑化・多様化してきているということが言える。もうひとつ、商店街の複雑化・多様化が切り口としてある。昔はお肉屋さんや八百屋さんが軒を連ねて商店街が形づくられていた。それが、都市計画拡大の中で、生鮮食品を売るところや飲食店、アミューズメントというのが、分けてつくられるようになってきた。郊外の大店化というものも、別海町さんでは当てはまっていると思う。そのようになってきた結果、先ほどの課題にもあったが、消費購買力の域外流出や、中小小売業等の衰退と商業の活性化というのがあり、そういう状況がまちづくりの流れの中で課題として起きている。このことから、今、商店街で取り組まなければならないのは、生鮮食品を扱い、配達もするけれども、そのついでに安否確認をする。商店街が憩いの場になるというような、複雑化・多様化・多機能化していかないといけない時代になってきた。以前は長屋形式で、食、住が近接し、商売をするところのうえに住まいがあるという近接型だったが、どんどん宅地が拡大するにつれ、大型店、働く場所、住むところを別々に整備するというふうに分かれ、それが効率的で良かった。ただそれが、今はそうでなくても10年後、20年後、30年後を見据えたとき、まちのコンパクト化の課題につながる

が、便利な場所に居住地があり、歩いていけるとお店があり、憩いの空間も公共施設もあるというような、決してひとつのハコモノをつくるという意味ではないが、複雑化、多様化するニーズを受け止められるようなまちのつくり方というのが、これから必要になってくるというふうに言われている。

急に視点を変えるが、こんなデータがある。「日本青少年研究所」による、2011年の高校生対象の調査で、「自分は価値のある人間だと思うか」という問いに対し、アメリカの高校生は89%、中国では88%、韓国は75%が、自分は価値のある人間だと答えている。それに対し、日本の高校生は36%と非常に低い数値になっている。また「自分が優秀だと思う」の問いについては、アメリカは88%、中国は67%、韓国は47%。日本の高校生は15%となっている。

また、小学生、中学生、高校生の授業の中に、キッザニアのような職業体験というのを組み込まれていることがあり、分析した結果、総合力の向上につながっていくといったことが言われている。これは今、文部科学省が教育改革をしようということで、このあいだは東大では初めて、ペーパーテストでは評価できない多様な学生の獲得を目指して推薦入試が導入され、77人が合格した。書類選考で1次合格者を決め、面接やディスカッション、1月のセンター試験結果を総合判断するという方法ということで、何を評価するかというと、思考力や判断力、表現力、コミュニケーション力、課題解決力、行動力、そして思いやりや慈しみ、優しさのはぐくみというのが、これからの教育の中でしっかり語られていかなければいけないということだった。一方、大人はどうかというと、オックスフォード大学のマイケル・A・オズボーン准教授という方の話によると、「消える職業」と「残る職業」というのがあるということだった。何が消える職業かということ、今、突き詰めるのは重要なことではないが、大人の状況というのも非常に厳しい社会になっている。子どもは職業体験をして総合力を上げていくというやりかた、或いはこれからの学習指導が変わっていくかもしれない。大人はやはり、創造して輝く大人になっていかないと、子どもも輝かないというふうに思っているので、やはりいつまでも別海で働く、いつまでも別海で暮らす、別海で買い物ができる、別海を好きになる、地域の活動に参加することが重要だと思う。無くなってしまう職業もあるかもしれないというなかで、新しい価値や仕事を創造していくということ、何か新しい仕事のかたちをつくっていくようなことを一生懸命やっついていかないと、輝く大人にはならないのではないかと思っている。このことは、言うのは簡単だが、世の中の流れとしてはそうなっているというのが、まちづくりや都市計画の中から見えてきている。他の自治体に比べて高齢化率は低いと言われているが、内閣府の高齢者の実態調査を見ると、「60歳以上の高齢者が、別居しているお子さんや孫と週に1回以上、会ったり会話をする割合」は、アメリカ8割、フランス、韓国は6割を超えているが、日本は47%と半分以下ということである。このことから、まちをフィールドに外出する、買い物でも散歩でもいいので外出行動を促す、それから高齢者同士が集まる場所が必要で、居場所づくりが大事だということが、まちづくりのなかでは言われている。居場所づくりというのは、イスとテーブルが無ければ駄目ということでもなく、買いに行くお店があれば、お店の方とお話もできるし、公共施設や公園などでもいいと思う。そうすることで、健康寿命が延びていく、生きがいややりがい創出される、そして生活の満足度が上がっていき、元気な高齢者になっていく。このことから、「高齢者」ではなく「交齢者」に、というのが、別海町のまちづくりのなかでは、創造交流のまちづくりという視点において大事なのではないかとと思っている。

これからの別海のまちは、まち全体が、人と人がつながって支え合う関係が生まれ、はぐくまれる、そういう創造交流の場としてのまちとして、例えばこの辺にくると誰かが歩いていて、建物の中に入ったら子どもやお年寄りもいて賑わっており、牛乳をもらいに来たついでに、元気をもらったり、子どもに何か教えてあげたりだとか、凄く簡単なことだけれども、こういう当たり前のことがきちんとできるまちになっていくということが、「つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり」のなかで大事なのではないかとと思っている。

最後になるが、「まちづくり」は「暮らしづくり」だと思っている。別海町の暮らしのスタイルをこれからつくっていくために必要なハード整備があるのであれば、それがどんな機能なのか、或いは誰がつくるのかなどあるだろうし、まちづくりはハード整備だけではなくて、必ずソフトとの両輪でいかなければならない。そうすることで暮らしのスタイルをつくっていくというようなこともしていかなければならないし、一方では「まちづくり」を「ひとづくり」というふうにも言われている。大人が輝いて見えないと、子どもは絶対輝かないと思っているので、子どもをきちんとはぐくんでいく。そして言うべきことは言う、聞くほうもきちんと聞く。そういうことをしていけば、「つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり～大人が輝けば、子どもはもっと輝く～」というまちが実現できるのではないかと考えている。ぜひ、そのようなまちを皆さんと一緒に実現させていきましょう。そのお手伝いのできたらいいなと思っております。ありがとうございました。

## 5 ワークショップ及び意見交換

### 1. 全体投票

受付後、矢臼別演習場周辺まちづくり構想の「基本方針を具現化する手立てのイメージ」の7項目の中で、これからの別海町にとって重要なこと、大切にしたいことにシール投票を行った。投票は、一人5票ずつで1項目に複数投票可とした。

基本方針を具現化する手立てのイメージ	合計	順位
集い、つながる交流機能の充実	27	4
災害時の食料供給備蓄機能の整備	7	7
子育て、高齢者を支える環境整備	38	1
地域を支える商業空間の充実	36	2
雇用環境の改善と場の創造	22	5
利便性向上を図る交流拠点の充実	30	3
支えあう関係をつくる複合機能の整備	18	6

### 2. 意見交換

全体投票でなぜその項目に投票したのか、理由や背景等を把握するため、5～10名のグループごとに意見交換を行った。

#### <A テーブル>

○集い、つながる交流機能の充実
・ 宿泊施設が足りていない。冬は客が減るが、夏は特に足りない。
・ 空き家を活用し宿泊してもらおう。
・ 民泊などもできるのではないかと。ホテルだと季節の課題がある。
・ シフト制にし、みんなで協力する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・スウェーデンや当別町のようなやアイスブロック作りのカフェをしてはどうか。</li> <li>・語学力が必要になる。語学を教えると宿泊料が安くなるなどはどうか。</li> <li>・長期的なイベントをやりたい。観光客も増えるのではないか。</li> </ul>
<p><b>○災害時の食料供給備蓄機能の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絶対的に必要であるが、災害の意識が低い。</li> <li>・お米やパンなどの給食の主食は中標津から買っている。そのような部分から変える必要がある。</li> <li>・町内の食材を普段からもっと活用していくべきである。</li> </ul>
<p><b>○子育て、高齢者を支える環境整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者は住みづらいと残らない。</li> <li>・単身の高齢者も集える場が大切である。集まることで見守りができる。</li> <li>・子育てしやすいと住みやすくなる。そのためには子どもの遊び場となるスペースが必要である。</li> <li>・子どもと高齢者が交流することで、学びや認知症の予防につながるのではないか。</li> </ul>
<p><b>○地域を支える商業空間の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者にもビジネスチャンスをつくり、シルバー人材の活用を図る。</li> <li>・まちづくりには経済の活性化が大切である。</li> <li>・本州から来た自衛隊員とのつながりを強化したい。お土産を買ってもらう。</li> <li>・浜の料理や農家の料理などがあるが、地元の人知らない。</li> <li>・買うことができ、さらに料理の方法も教えてもらえる仕組みづくり。</li> <li>・農家の高齢者がつくる野菜は市場に出ない。売場があることで、農業アピールできるのでは。</li> <li>・商業施設に温泉を付けてはどうか。温泉は出ている。元銭湯など。</li> </ul>
<p><b>○雇用環境の改善と場の創造</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛隊は55歳で定年になるので、その後の雇用を促す。シルバー人材の活用。</li> <li>・人材不足である。コーディネーターや行政の支援が必要である。</li> <li>・外国人の受け入れを視野に入れる。</li> </ul>
<p><b>○利便性向上を図る交流拠点の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要である。ある程度の人数（1000人程度）が入れるホールがほしい。音響設備も大切である。</li> <li>・大規模な会議室もあると良い。</li> <li>・自衛隊の音楽会は設備が整っていないとできない。</li> </ul>
<p><b>○支えあう関係をつくる複合機能の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当は欲しいが、お金がかかることなので、行政との調整が必要である。</li> <li>・ホールと商業施設を分け、商業は街中の道の駅にあると良い。</li> <li>・施設は複合化する必要はないのではないか。</li> </ul>
<p><b>※その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街中は歩道も狭く、観光バスが通れない。</li> <li>・牛の糞尿の臭い問題は少なくなっているが、まだある。</li> </ul>

<Bテーブル>

<p><b>○集い、つながる交流機能の充実</b></p>
-------------------------------

○災害時の食料供給備蓄機能の整備
○子育て、高齢者を支える環境整備
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢化は確実に進んで行く。</li> <li>・ 老人の一人暮らしがだんだんと多くなり、集落の大部分が高齢化してきた。子どもの数も少なくなり、学校も統合され他の地域へ移った。先が暗くなりがちである。</li> <li>・ 働く女性の活躍が必要である。</li> <li>・ 役割を持って地域に暮らすことが大切である。</li> <li>・ サポート体制の充実を図りたい。(ハードとソフトの両方で)</li> <li>・ 高齢者にも子どもを見守る役割が与えられると生き生きするのではないか。</li> <li>・ 子育て世代への支援の充実が必要である。</li> <li>・ 子どもと高齢者の交流の場の提供が必要である。</li> <li>・ だんだんと少子高齢化は進むので、商業につながるため、子育ての充実をする。</li> <li>・ 夏は野菜作りや花を育てている高齢者が多いが、秋冬は閉じこもりがちである。</li> <li>・ 高齢者と子どもを分ける環境より、交流できる環境が必要である。</li> <li>・ 働く女性の活躍を促すためにも必要ではないか。</li> <li>・ 子ども子育て支援の委員として活動している立場もあり、地域で子どもを育てるという大切なサポートの旗振り役をしている。</li> <li>・ 場所を準備するばかりでなく、サポートするスタッフの充実を図ることが大切である。</li> <li>・ 水産、農業の商品がなかなか近くで買えない。別海町は広いのではと思う。一括して買える場所があると良い。</li> </ul>
○地域を支える商業空間の充実
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 買回り品が買えるところが少ない。遠い。</li> <li>・ お客さんを連れて行けるおすすめの方法が少ない。</li> <li>・ 外から来町した方を連れて行く場所が市街地には少ない。ないかもしれない。</li> <li>・ 別海中央地区には特産品を買う場所がない。</li> <li>・ 酪農と漁業を一緒にアピールしてはどうか。一か所で販売できる場所があると良い。</li> <li>・ 地元食材を地元の人が調理して提供すると良いのではないか。</li> <li>・ お母さんが地元食材を使ったオリジナルレシピを提供すると良い。</li> <li>・ 地元の特産品を購入できる場の提供が必要である。</li> <li>・ 市街地にも観光客が寄るシステムづくり。</li> <li>・ お土産や贈り物(地元産品)を一か所で買える場所があると便利であると思う。</li> <li>・ 酪農と漁業の町であるが、一か所でアピールできる場所があると良い。</li> <li>・ 決まった場所に人を集めることで、活気も出てくるのではないか。12月にある農協の魚介類の販売には大勢集まる。</li> <li>・ 他県に行くことがあるが、食べ物は別海が一番であると思う。ブランド化や広告力をつけ、生産者が自信をもって送り出せる製品作りにお金をかけていく。</li> <li>・ 学校給食で別海産のものを使うことで、商業振興を図る。</li> <li>・ 地元食材に対する需要は、高齢者施設などの町内である。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・食料品を宣伝するポータルサイトをつくった方が良いと提案したことがある。</li> <li>・(「雇用環境の改善と場の創造」につながる)</li> </ul>
<b>○雇用環境の改善と場の創造</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用者の確保が大事である。</li> <li>・高校を卒業したら町を出ていく若者が多い。</li> <li>・地方の学校に進学しても戻って来られる場所があれば、若い人の人口を増やすことができる。</li> </ul>
<b>○利便性向上を図る交流拠点の充実</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い駐車場が確保でき、地域の人が相談できる部門や簡易的な図書館、お金が取れる(利益発生)事業計画(コンサート、講演)がこなせるものが良い。</li> <li>・(「支えあう関係をつくる複合機能の整備」と同じことではないか)</li> </ul>
<b>○支えあう関係をつくる複合機能の整備</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は機能が分散しているので、集約化により賑わいを創出する。</li> <li>・年間を通して町民が集まりやすい施設であると、利便性が良くなる。</li> <li>・図書館と物産館の機能を一緒にすると良いのではないか。</li> <li>・(「利便性向上を図る交流拠点の充実」と同じことではないか)</li> </ul>
<b>※その他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノウハウを持っているので、男性もまちづくりへ参画した方が良い。</li> <li>・まちのコンパクト化が必要。西春別はどうか。</li> </ul>

<Cテーブル>

<b>○集い、つながる交流機能の充実</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代の利用者と高齢者の交流が生まれるような仕掛け・空間作りが大切(複数意見)。</li> <li>・子育て、高齢者を支える環境整備と分けず、一体で取り組みを進めるべき(複数意見)。</li> </ul>
<b>○災害時の食料供給備蓄機能の整備</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常時は給食センターとして、有事、災害時は配食のサービスができる施設として利用できるなど、機能の複合化が必要である(複数意見)。</li> </ul>
<b>○子育て、高齢者を支える環境整備</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと高齢者がコミュニケーションを取りにくい環境になっている。</li> <li>・別海は公共施設が充実している一方で、利用できない人(そこまで行けない人)の交流を促すためにどうすべきか、考える必要あり。交流の仕組みを検討する必要がある。</li> <li>・核家族化が進み、車社会となり、街に人の気配がない。高齢者が子どもと触れ合うことで認知症を予防する支え合う関係の構築ができればいい。</li> <li>・中標津の夢の森のような、雨天時も遊べる施設があり、そこに高齢者の居場所があるといい。</li> <li>・福祉牛乳を取りに来る場で交流が生まれている。同様のコミュニティや交流を他にも生んでいきたい。</li> </ul>
<b>○地域を支える商業空間の充実</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業を観光へつなげる。通過型から滞在型への転換を!(複数意見)</li> <li>・高齢化が進み、一次産業の規模が縮小してきている。店舗もスーパー化してきており。地元の産品をメインとしながら、他地域から人を呼び込むような店舗づくりが必要ではないか。→観光客の呼び込みにも繋げていかなければならない。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・尾岱沼の海産物、酪農からなるチーズなどの乳製品を目玉に、通過型から滞在型への転換が必要。</li> </ul>
<b>○雇用環境の改善と場の創造</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新施設の維持管理運営での雇用創出を(複数意見)。</li> <li>・生涯学習センターなどの複合施設ができれば、そこを維持管理する雇用が生まれるように。また店舗や食堂などでの雇用も考えられる。</li> </ul>
<b>○利便性向上を図る交流拠点の充実</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の公民館機能の更新を図り、室内環境、音響の設備充実を図る(複数意見)。</li> <li>・中央公民館機能を更新すること(大型のコンサートなどは根室、中標津でいいのでは)</li> <li>・室内環境、音響施設をよくすること。</li> <li>・それぞれの地区の公民館との役割、機能分担を考えること。</li> </ul>
<b>○支えあう関係をつくる複合機能の整備</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい活動の積み重なりができる場作りを(複数意見)。</li> <li>・サークル的な活動のイメージで。(給食室で料理教室、焼き物教室、ダンス教室など)</li> <li>・様々な人が様々な活動し、交流する小さいブースがある。</li> <li>・施設の複合機能化が必要ではないか。</li> <li>・地域全体で子どもや高齢者を見守ることが大切。</li> </ul>
<b>※その他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設の空きが増えている。リノベーションが必要。</li> <li>・人付き合いが苦手な高齢者も多いが、子どもを介するとスムーズに交流できることも。</li> </ul>

#### <Dテーブル>

<b>○集い、つながる交流機能の充実</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育て、高齢者を支える環境整備」の発展形で外の人も巻き込むイメージが良い。</li> <li>・建物の他に外の広場が必要である。</li> <li>・木育広場。</li> <li>・集まった人が起業(「雇用環境の改善と場の創造」につながる)</li> <li>・(「子育て、高齢者を支える環境整備」と同じではないか)</li> </ul>
<b>○災害時の食料供給備蓄機能の整備</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・海、山の近くに居住する人は取り組んでいるが、中心部の人には危機感が薄い。</li> <li>・町内外の人、郡部から通って来る子どもや観光客のための防災センターがあると良い。</li> <li>・備蓄について、米等は消費期限があるため、定期的な使い道も合わせて考える。</li> <li>・なにを備蓄するか、しっかりと検討し、定期的な更新をする必要がある。</li> <li>・自衛隊や町内各部署で対策がバラバラなので、トータルで連携させる必要がある。</li> </ul>
<b>○子育て、高齢者を支える環境整備</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部の人中心のイメージ</li> <li>・まちの維持のために子どもは大事である。子育てがしやすいまちになるとよい。</li> <li>・高齢者の豊かな知識を活用する。子どもと触れ合うことでお年寄りも元気になる。</li> <li>・高齢者の知恵を伝承していく必要がある。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部からの目を大事にする。</li> <li>・核家族が多くなっても、地域の子どもはみんなで育てることが大事。</li> <li>・自分一人で育てるのは無理なので、みんなで育てることが大事である。いろんな人が子どもに関わることで子どもに良い教育になると思う。</li> <li>・郷土を地元の人知らない。郷土を知る力を育みたい。</li> <li>・別海にはいろいろと豊富な歴史がある。</li> <li>・（「雇用環境の改善と場の創造」、「支えあう関係をつくる複合機能の整備」につながる）</li> </ul>
<p><b>○地域を支える商業空間の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の食材（魚）を買う場所がない。</li> <li>・お魚、チーズなど別海のもものがまとまって買える場所がほしい。</li> <li>・外からお客さんが来ても、別海の食材を出してあげることができない。お土産が買えない。</li> <li>・まちの人が、地元の良いものが当たり前になってしまっていて、発信していない。</li> <li>・（「支えあう関係をつくる複合機能の整備」につながる）</li> </ul>
<p><b>○雇用環境の改善と場の創造</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外から来た人が生活できる環境が必要である。</li> <li>・文化的な側面もあるのではないかな。</li> <li>・チャレンジオフィスなど支援する場を整備したい。</li> <li>・将来は ICT 系の仕事が増える。小さく始められる場が必要である。</li> <li>・新たな雇用を生む搾乳の IT 化をしたい。</li> <li>・（「支えあう関係をつくる複合機能の整備」につながる）</li> </ul>
<p><b>○利便性向上を図る交流拠点の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別海町には音楽が好きな人が多い。中標津交響楽団の半分は別海町の人占めている。</li> <li>・400～500 席程度の音響の良いホールが良い。</li> <li>・本物のホールが良い。外の人からここで演奏したいと思われるようなものが良い。</li> <li>・子どものころから良い音を聞かせて、イメージ力を育む必要がある。</li> <li>・採算が合わないと運営できない。人口規模から考えると、同じものはいらぬのではないかな。</li> <li>・予算のこともあるが、町民ファンドで募っても良いのではないかな。</li> <li>・多目的な利用などを検討し、稼働率を上げる。</li> <li>・（「雇用環境の改善と場の創造」、「支えあう関係をつくる複合機能の整備」につながる）</li> </ul>
<p><b>○支えあう関係をつくる複合機能の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複合的は機能が中途半端になる可能性があり、危険である。</li> <li>・結果的に複合化することが大事である。</li> </ul>

<E テーブル>

<p><b>○集い、つながる交流機能の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家、空き部屋を活用できると良い。</li> <li>・せっかくあるスペースなので、交流のためなどに活用したい。</li> <li>・アパートが足りない反面、空き家もある。</li> </ul>
<p><b>○災害時の食料供給備蓄機能の整備</b></p>

<b>○子育て、高齢者を支える環境整備</b>
・「行ったら誰かがいる」という場があると良い。
・生き生きと楽しく生活できるまちが良い。
・地域内や家庭内でコミュニケーションが取れるようになると良い。
・お年寄りのやさしさの中で子どもが育つと良いのではないかな。
・家のつながりだけでなく、社会から影響を受けて育つと良い。
・笑顔で暮らせることが大事。子どももお年寄りもお互いに学ぶことがあると思う。
・高齢者と子どもが交流できる機会がない。
・保育所のお散歩コースにお年寄りの施設を組み込めないかな。
・トイレ休憩に活用してはどうか。(保育園のお散歩コースで)
・車を手放し移動手段がない方も気軽に参加できるようになると良い。各地域で集まりがあると良い。
・核家族が問題になる中、シェアハウスなどが注目されている。
・個を大事にしつつ集える価値がある。
・週2回の福祉牛乳を受け取る際に、コミュニケーションが生まれる。
・子どもを遊ばせられるコーナーがあると良い。
・ふれあいの家の交流スペースのようなものが良い。
<b>○地域を支える商業空間の充実</b>
・観光客がホタテなどの水産物を買える場所があると良い。
・別海産のものが売っていない。
・地域で消費することで食育にもつながるのではないかな。
・地域で買える魚や野菜が少ない。売っていれば観光客に知ってもらえる。
・病院の前で朝市や軽トラ市をやると良いのではないかな。
・移動手段がない方も安心して暮らせるように、移動販売や配達、デマンドバスがあると良い。
<b>○雇用環境の改善と場の創造</b>
<b>○利便性向上を図る交流拠点の充実</b>
・中央公民館はサークル活動や展示等の観覧、福祉牛乳の受け取りで利用している。
・現在の中央公民館の駐車場は狭い。1台1台のスペースも狭い。
・各地域の拠点には町内会館がある。
・人が集まりやすい場所が良いのではないかな。
・避難所としても活用できると良い。
<b>○支えあう関係をつくる複合機能の整備</b>

### 3. テーブル投票及び集計結果

事業説明、情報提供、他の町民の意見を聞き、これからの別海町にとって重要なこと、大切にしたいことの再認識の結果を把握するため、再度シール投票を行った。投票は、一人5票ずつで1項目に複数

投票可とした。

基本方針を具現化する手立てのイメージ	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ	合計
集い、つながる交流機能の充実	2	1	0	6	5	14
災害時の食料供給備蓄機能の整備	3	4	0	7	1	15
子育て、高齢者を支える環境整備	8	10	5	12	9	44
地域を支える商業空間の充実	7	17	3	2	4	33
雇用環境の改善と場の創出	2	6	3	2	3	16
利便性向上を図る交流拠点の充実	6	0	4	10	6	26
支えあう関係をつくる複合機能の整備	2	7	5	1	2	17

※Cグループは「集い、つながる交流機能の充実」と「子育て、高齢者を支える環境整備」をまとめ投票を行った。

基本方針を具現化する手立てのイメージ	順位	
	1回目	2回目
集い、つながる交流機能の充実	4	7
災害時の食料供給備蓄機能の整備	7	6
子育て、高齢者を支える環境整備	1	1
地域を支える商業空間の充実	2	2
雇用環境の改善と場の創出	5	5
利便性向上を図る交流拠点の充実	3	3
支えあう関係をつくる複合機能の整備	6	4

## 6 閉会